

日程が決まりました!!



なは女性センター講座2021

手話通訳
あります!

「ろう LGBTQ」団体 いるまんちゃーが、 「多様な性」を語る



現在、日本で「多様な性」(LGBT/レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)を生きる人たちは、13人に1人の割合でいると言われています。性的少数者への理解は少しずつ深まっているものの、まだまだ認知されているとはいえません。

LGBTでは区切れない性的マイノリティとしての「クエスチョニング(Q)」を加えて、「LGBTQ」と表記する場合があります。

ろう者のなかにもLGBTQに対する偏見や差別のため、ストレスや不安を抱え、孤立させられている方がいます。

聴覚障害者と聴者がともに生きるためには、まず、お互いを「知る」ことが大切です。

今回は、「多様な性」を生きる「ろうLGBTQ」団体“いるまんちゃー”の活動報告を受け、「違いを認め、つながり合う」方法を学びます。



「いるまんちゃー」とは

沖縄の言葉で、色がちやごちゃ混ざっているという意味です。いろんな個性が集まって、この場所で交流を深められたらいいなと思い、設立しました。主に沖縄在住の、ろう者で、LGBTQ当事者を中心に活動しています。ゆたしくうにげーさびら。

日時: **12月4日(土)**

午後 **2時 ~ 4時**



沖縄ろうLGBTQ
いるまんちゃー

講師: 「ろうLGBTQ」団体 “いるまんちゃー” メンバー

場所: なは女性センター

対象者: 関心のある方

定員: 24人(事前申込先着順)

* 一時保育は当面の間、休止いたします。

* 新型コロナウイルス感染症などの状況により、変更する場合があります。



☆代表ふーみー



☆ありさ



☆まーしー



☆アキト

このQRコードをスキャン
すると、「いるまんちゃー」
ラインの友だちに追加できます。



なは女性センターを利用される皆さまへご協力をお願い



「なは女性センターにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿って、ご利用いただきます。体調のすぐれない方は、ご利用をお控えください。マスク着用、検温、手指消毒のご協力をお願いします。今後の状況により、変更する場合があります。最新の情報は市ホームページでご確認ください。

講座名：なは女性センター25周年記念 座談会
「なは女性センターの果たしてきた役割、
そして、これからを考える」

開催日：2021年10月1日(金)午後2時～4時／参加者：18人



▲左から(山城紀子さん・高里鈴代さん・宮城晴美さん)

*座談会の一部を振り返ります。冊子にまとめる予定ですので、改めてお知らせいたします。



パネリスト
高里鈴代さん

「みづかな婦人問題講座」(主催:働く婦人の家)で、講師を引き受けた高里さん(当時:那覇市婦人相談員)と若尾典子さん(当時:琉球大学非常勤講師)の講座がきっかけで、沖縄タイムス紙上に『みづかな女性学』(著者:若尾典子)として1年半連載され、1986年11月にその記事をまとめた本が出版されたことから、お話が始まりました。

著書の資料にある、「10代の出産率 地域別思春期出産(1975年)」で、厚生省(当時)「人口動態調査」から、「15～19歳の女子人口1000対の出産」が沖縄は全国トップの17.81で、2位の高知県の6.60を大幅に上回っていること、46年前の「思春期出産」の状況と現在の「若年妊娠・出産」の問題は、何ら変わっていません。

妊娠という結果責任を、なぜ、女性だけが背負わなければならないのでしょうか。「性的同意」の中には、避妊も含むはずです。高里さんのお話から、「妊娠にいたる過程に関する性教育を発達段階に応じて提供する」必要性を強く感じ、ジェンダー問題や性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)の課題を発信していく必要を感じました。

高里さんは、なは女性センターの設立1年前の1995年10月にスタートした無償ボランティアによる電話相談「強姦救援センター・沖縄(REICO)」の代表です。「女性への暴力を許さない」運動を一貫して続けられている81歳の高里さんの活躍に、元気をいただきました。



パネリスト
宮城晴美さん

宮城さんは、沖縄の月刊誌の記者、編集者をしていた頃に、なは女性センターの前身である「働く婦人の家」で、何度か女性史講座の講師を務め、その後、1991年に那覇市の職員となり、県内では前例のない市の女性史編纂事業を担当していました。

これまでの沖縄の女性史は、例えば、伊波普猷や宮城栄昌など、男性の目で書かれたものでしたが、県内で初めて、女性の目で女性の歴史を書く、ということでスタートしたのが那覇市の女性事業だったのです。この事業を進める土壌が那覇市にはあり、このような経過を含め、那覇市に女性センターが欲しい、という構想が実現したのだと話されました。

1985年に始まった「うないフェスティバル」の意義として、女性たちの力を結集させ、ネットワークを広げたことをあげました。その結果、うないフェスティバルで元気と自信を得た多くの女性たちが、1995年の「第4回世界女性会議及びNGOフォーラム(北京)」へ、参加することにつながりました。

第1回から関わってきた宮城さんは、集団自決をテーマにした「赤いブクブク」や「命」等の一人芝居の脚本を書き、故北島角子さんに提供したこと等が、うないフェスティバルの思い出として残っていますと、熱く語っていました。



パネリスト
山城紀子さん

1996年、沖縄タイムス社の記者だった山城さんは、夕刊一面のコラムを担当しており、当時の女性たちを取り巻く厳しい社会状況について語ってくださいました。

その頃は、「女性記者」というだけで、社内外で扱われ方が違い、社会人になって、新聞社に入った途端、女性問題が即、山城さん自身の問題となったのです。

婦人欄に男女平等、女性の自立などをテーマにやっていたと決意し、書いた主なテーマは、①「男女混合名簿」(性別によらない名簿)②「総合職女性の離職」③「教師の性犯罪」④「35歳パスガイド定年訴訟」⑤85年の「国籍法の改正(父系血統主義から父母両系主義へ)」⑥では、沖縄の女性たちが大きく関わっていました。国会で無国籍児がいることが明らかになり、その大半が駐留米軍軍人や軍属の男性と沖縄の女性が結婚し産まれた子どもの国籍が取得できなかったからです。また、⑥「介護問題」では、「介護の社会化」が言われるまでは、介護は社会問題でさえなかったこと。妻・「嫁」・娘であれば介護をするのは当たり前で、代表的なアンパイドワーク(無報酬労働)だったこと等について、情熱的に語ってくださいました。

「婦人欄」担当に配属されてから異動もなく13年間、ほとんど婦人欄だけの担当記者として、決して諦めることなく、ジェンダー平等の視点で書き続けてきた山城さんの話に惹きつけられました。



◀コロナ禍で4か月ぶりに開館したセンターに活気が戻ってきました♪ 開設当初からの受講者の参加もあり、センター設立までのパネリストの方々や多くのうない(女性)の関わりを学びました。

その⑤

なは女性センター 25周年

25周年を迎えるにあたり、
そのあゆみを振り返ります。



▲那覇市歴史博物館
と本庁1階ロビーにて、
明治・大正・昭和
の時代の女性たちの
行動を写真を中心に
紹介しました。
(2007年9月)

「なは・女のあしあと」展



▲実行委員会の皆さんの
ご協力に感謝です！

2006年10月に、なは女性センター利用
団体の協力により、10周年記念事業実行
委員会を立ち上げ、「なぜ、いま男女共同
参画なのか？」をテーマに、パレット市民
劇場で講演会を開催しました。



▲国際交流員の
ウェイさん
(2006年12月)

なは女性センター10周年記念講演会

平和で豊かな社会の発展のために「平和交流・男女参画室」へ

2006年度から組織改編により、市民平和交流室と統合し「平和交流・男女
参画室」となりました。平和交流事業との連動で、中国の江西省から国際交
流員として市へ赴任していた、魏如祥(ウェイ・リュウシヤン)さんに、
「中国の女性たち」、「中国の学校教育」をテーマにお話いただきました。



講師の
広岡守穂さん



▲ロビーで「女性週間(婦人週間)
と女性のあゆみ展」を開催。
当日は、300人以上が来場し
ました。

11月は「児童虐待防止推進月間」です!!

「だれか」じゃなくて
「あなた」から
あなたの電話が親子を守る



▲主唱：厚生労働省

子どもや保護者のサインを見落としていませんか？
子どもについて 保護者について

＊いつも子どもの泣き叫ぶ声
や保護者の怒鳴り声がある
＊不自然な傷や打撲のあとが
ある など

＊地域などと交流が少なく
孤立している
＊小さい子どもを家においた
まま外出している など

子育てのこと、頼れる場所があります
ご自身が出産や子育てに悩んだら・・・
子育てに悩む人がいたら・・・
こちらにご相談ください。



児童相談所 相談専用ダイヤル

通話料
無料

いち は や く お な や み を
0120-189-783

児童相談所
虐待対応ダイヤル
いち は や く
189

- ・お住まいの地域の児童相談所に
つながります。
- ・通告・相談は匿名で行うことも
可能です。
- ・通告・相談をした人やその内容
に関する秘密は守られます。



★女性問題やジェンダーに関する図書の
貸し出し及び資料の閲覧ができます。
☆貸出し期間：2週間 お一人2冊まで

1)『女の子だから、男の子だからをなくす本』
ユン・ウンジュ 著/イ・ヘジョン 絵/すみみ 訳
エトセトラブックス 発行/2021年3月30日発行/53頁

2)『説教したがる男たち』
レベッカ・ソルニット 著/ハーン小路恭子 訳
左右社 発行/2018年9月10日発行/205頁

3)最新図解『女性のADHDサポートブック』
榊原洋一・高山恵子 著/ナツメ社 発行
2019年12月2日発行/159頁

4)最新図解『女性の発達障害サポートブック』
本田秀夫・植田みおり 著/ナツメ社 発行
2019年3月1日発行/159頁

5)『誰がこの子らを救うのか』
沖縄・貧困と虐待の現場から
山内優子 著/沖縄タイムス社 発行
2020年6月21日発行/211頁

6)『子どもを育てられるなんて思わなかった』
LGBTQと「伝統的な家族」のこれから
古田大輔 編/杉山文野・松岡宗嗣・山下知子 著
山川出版社 発行/2021年9月10日発行/317頁

7)『愛と差別と友情とLGBTQ+』
言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体
北丸雄二 著/人々舎 発行/2021年9月10日発行/443頁

8)『LGBTQの子どもの学校ソーシャルワーク』
エンパワメント視点からの実践モデル
寺田千栄子 著/明石書店 発行/2020年7月6日発行/214頁



新着本です!!

相談室「ダイヤルうない」

周囲に話せる人がいない、自分の気持ちをわかってもらえない。そんな時、「ダイヤルうない」を利用してみませんか。生きがい、家庭の問題など、女性の抱える様々な相談に応じ、自分の意思で人生を選択するために情報提供し、サポートします。

- 電話相談
- 面接相談(女性のみ・要予約)
- 法律相談(女性のみ・予約制)

098-861-7515

月～土 午前9時～12時／午後1時～5時

「ストップ・DV」情報提供

相談室「ダイヤルうない」では、ドメスティック・バイオレンス(DV)で悩む方を支援するための情報提供を行っています。詳しくは相談室「ダイヤルうない」へお問い合わせください。



性の多様性に関する相談

あなたが「自分らしい生き方」を自らの意思で選択できるように、一緒に考えます。どなたでもご相談ください。

レインボー交流会の開催について

「交流の場がほしい」「当事者と知り合いたい」「性の多様性について語りたい」といった声から生まれた、誰でも参加できる交流会です。みんなが安心して語り合える場所作りを目指します。

開催日: 12月25日(土) 14時～16時 / 場所: なは女性センター

主催: 市民団体ていーだあみ

問合せ先: tiidaami.okinawa@gmail.com

※「レインボー交流会okinawa」で検索すると、フェイスブックで最新情報を確認できます。

→ <https://www.facebook.com/rainbow.okinawa/>

那覇市パートナーシップ登録

「那覇市パートナーシップ登録」は、戸籍上の性別が同じである2人の申請に基づき、市長が両者をパートナーシップ関係にあると認めた場合、その関係について登録簿へ登録し、証明書を交付するものです。

■「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言(レインボーなは宣言)の理念に基づく取組です。登録によって何らかの法律上の効果(婚姻、相続、税金の控除など)が生じるものではありません。

登録数 **41** 組
2021年11月15日現在

■お問い合わせ・申請の予約■

TEL. **098-951-3203** ◆月～金: 午前9時～午後5時

* 祝日、慰霊の日(6/23)、年末年始を除く

がーくーの 育児日記 ②

8月初旬に次女が誕生し、8月中旬から9月中旬までの1か月間、育児休業を取得しました。私事で恐縮ですが、育児生活の一部をお伝えしたいと思います。

☆長女について

長女は、次女が生まれる前から、すでに赤ちゃん返りが始まっていたので、次女の誕生によって、手が付けられなくなるのではないかと妻と戦々恐々でした。しかし、蓋を開けてみると、すっかり「お姉ちゃん」として次女を可愛がり、率先してお手伝いもしてくれています。次女をお風呂に入れるときは、長女が私の隣に来て、ちゃんとできているかチェックしています(笑)長女が「お姉ちゃんだよ」「抱っこしようね」と次女に優しく話しかける姿は、とても愛おしく熱いものがこみ上げてきます。



▲スマイル♪



▲ドライブ♪
楽しい♪

育休期間を振り返ると、長女と2人で過ごす時間が格段に増えました。というのも、長女は、大のママっ子だったので、これまで私と2人だけで行動することは考えられませんでした。

しかし、次女誕生後に、魔の5日間(私と長女の2人っきり生活)を切り抜けたことで、長女が次第に私を「相棒」として認めてくれるようになりました。育休期間中は、コロナ禍のため、長女が大好きな大型スーパーへ行くことはできませんでしたが、公園や海岸へ行ったり、読谷までドライブしてランチを共にするなど、2人だけの貴重な時間を過ごすことができました。この育休期間を通して、少しはパパっ子になってくれた様な気がします(@@)



(仲宗根 学) ▲公園で♪

◆なは女性センター講座について

*受講希望の講座は、なは女性センター窓口、電話、FAX、Eメールでお申し込みください。また手話通訳、一時保育(現在休止中)の利用は、那覇市在住・在勤・在学の方が対象です。(事前予約が必要)

お問合せ

那覇市銘苅2-3-1(なは市民協働プラザ1F Aコア)
TEL. 098-951-3203 FAX. 098-951-3204
Email: s-heidan002@city.naha.lg.jp

開館時間

月～金: 午前9時～午後9時 年末年始(12/29～1/3)
土曜日: 午前9時～午後5時 日曜日・祝日・慰霊の日(6/23)

駐車場の利用について

「なは市民協働プラザ」の地下駐車場と消防局隣の「ナハメカルパーキング」は有料です。センター利用者は、料金の一部が免除されますので「駐車券」を事務室にお持ちください。

☆なは女性センター利用者の一部免除料金

最初の2時間まで	100円
最初の2時間を超え1時間までごとに	100円
※利用時間に1時間に満たない端数は1時間として計算。	

